



臨床研究部
からのお便り

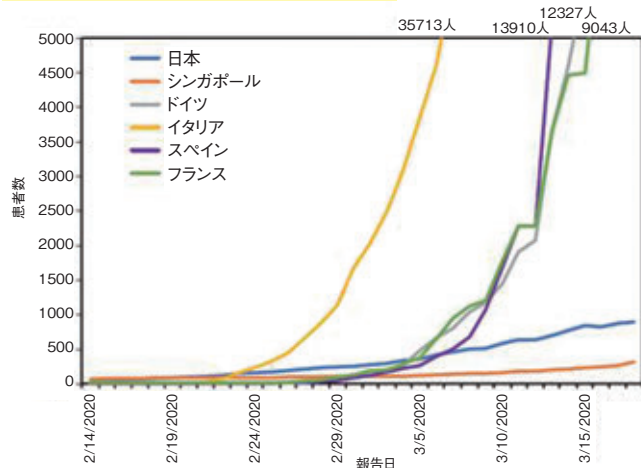
COVID-19は今後どうなるのか

第23回

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は瞬く間に世界に広がり、世界保健機関はパンデミックを宣言しました。3月26日時点では世界中で471,518例の確定患者が報告され、死亡例は21,293例となっています。当初中国の湖北省に始まったアウトブレイクは徐々に中東とヨーロッパに広がり、ヨーロッパで急激な拡大とともに北米と南米に広がりつつあります。一方では、日本は地域封鎖や外出禁止令などの出ている欧米に比べて、患者の増加速度は緩やかです(図)。この理由は明確にはわかりませんが、幸か不幸かダイヤモンド・プリンセス号でのアウトブレイクがあったため、早くから意識が高まったこともあると思いますが、なによりも、各地方自治体の保健所の方々のアウトブレイク対応、すなわちCOVID-19の患者さんが1人見つかったら、すみやかにその濃厚接触者を特定して、そこから先への感染伝播を防いでいることが大きいと思います。そして、ほとんどの濃厚接触者の方が、人との接触を避けて自宅待機をして頂いたという日本人の真面目さにも感謝すべきだと思います。また、一方では、Social distancingと言われるような、人と人の距離を離して接触頻度を軽減するために、学校閉鎖、大規模イベントの中止、外出自粛や自宅勤務の奨励なども行われましたが、みなさんがこれに非常に協力的であったということも大きな要因だと思います。

しかしながら、これまでのニュースレターに記載してきましたように、新型コロナウイルスである SARS coronavirus-2は人類にかなり適応していることには間違いないようで、効率よく人から人に渡り歩いて生存しているようで、今後もその感染伝播を止めることは難しいです。実際、東京を含む大都市圏では、感染伝播経路がよくわからない患者さんがでており、徐々に地域で広がっているということは否定できません。一方、少なくとも我々の住む、三重県内ではすべて伝播経路が追えている状況で、誰から感染したか不明という症例は見つかっていないので、地域の中で知らない間に広がっている状況でないと思われま。そのようなことから、そろそろ学校閉鎖などを解除しても良さそうではないかとの議論も聞こえてきますが、はたしてそうでしょうか。三重県が東京、大阪、愛知を含む他の感染が広がっている地域との交流を絶って鎖国をするというのであれば話は別ですが、現実的にはそういうことはできないでしょう。そうであれば、遅かれ早かれ、三重県にも患者は入ってきますし、たくさん入ってくるようになれば、現在の東京のように誰から感染したかわからない患者も増えてくるでしょう。現在オーバーシュートと呼ばれているような、患者数が急激に増加するような事態になれば、最近医療費削減などでどんどん病床

図:国別の累積感染者数の推移(新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」(2020年3月19日)より)



注: 報告日付(横軸)別の国別感染者数の推移。イタリア、スペイン、ドイツ、フランスなどで同様の増殖率で指数関数的増殖が見られる(オーバーシュート)。

数を減らされている現状の医療体制など簡単に破綻してしまうでしょう。現在は、三重県は大丈夫だからイベントなどもすべて解禁しようということではなく、毎日の報道で見られているイタリアやニューヨークの状況を考えて、自分たちはどのように行動するかを考えていく時期だと思います。

地域内で感染が蔓延しつつあるときに接触頻度の軽減政策を行うことは、実際に感染を減少させる効果があります。これは過去の1918年のスペインインフルエンザのときの米国の経験をはじめとして、最近の中国湖北省の武漢市やイタリアの状況をみても明らかです。しかしながら、完全に地域を封鎖して外出禁止としてしまうことは、社会経済的にはかなり大きなインパクトがあり、日常生活にも大きな影響があります。できれば、そのような強力な施策が必要にならないように、バランスをもって接触頻度を軽減でき、患者数を増やさないことがもっとも良いと思われま。いま、いろんなことをすべて解禁してしまっよという時期ではありません。これから少しずつ広がる場所かも知れないと思って、慎重にゆっくり一歩を踏み出すことが求められます。状況によっては、すぐに足を引っ込めなければならないかも知れないのです。

もともと風邪のウイルスだから、暖くなれば自然に減っていくのでは無いかと思われるかもしれませんが、確かに季節性のインフルエンザは冬季に流行し暖くなると減少しますが、一方ではアジアの亜熱帯地域や熱帯地域ではインフルエンザは暑くてジメジメした雨季に流行します。2009年の新型インフルエンザのA/H1N1pdm09は、夏から流行が始まりました。気温や湿度は、感染症流行の絶対条件ではなく、人の免疫状態によるところが多いと